



せいの恵子 区政レポート

日本共産党北区議員団
〒114-8508

王子本町 1-15-22

<http://keiko-seino.com> mail@keiko-seino.com

ご相談は
お気軽に

070-3531-0812

さらに区民本位の予算に

3月23日の北区議会第1回定例会最終本会議で日本共産党北区議員団を代表して、2022（令和4）年度北区一般会計予算への反対討論及び予算組み替え提案賛成討論を行いました。

2022（令和4）年度北区一般会計予算に反対の3つの理由

第1の理由

特別区税、特別区交付金などの大幅な増収を見込み、当初としては過去最大規模となる予算案の中で、新型コロナ対策や、コロナ禍によって影響を受ける区民、事業者への支援が不十分にとどまっていること

第2の理由

コロナ禍の下、貧困と格差を広げてきた新自由主義の弊害を直視せず、経営改革の名で行革路線に固執する姿勢

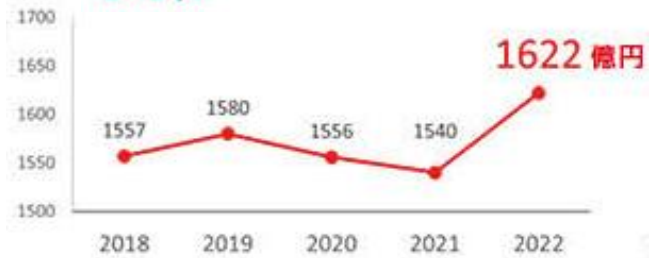
- 職員削減・外部化・受益者負担の行革路線で、保健所や学校を統廃合、官製ワーキングプアが拡大

第3の理由

民間企業と一体に超高層マンションを呼び込む駅前開発や大型道路建設など、住民合意に欠けるまちづくりの姿勢

- タワマン誘致の駅前再開発で既存商店街や学校の教育環境に影響が。特定整備路線では3つの住民裁判も

過去最高の
予算規模
なのに…



積み立て
(貯金)に
70億円*

*年度末と新年度の計

30億	施設建設
20億	まちづくり
20億	学校改築

コロナ禍の下で過去最高の予算規模となっているのに、年度末と新年度あわせて約70億円も積み立てる予算であることを示し、「財政に余力があるなら、区民と事業者への支援を強化すべき」と提案しました。

予算組み替え提案

日本共産党北区議員団と新社会党は共同で、「北区一般会計予算の組み替えを求める動議」を提出しました。

予算組み替え提案は、財政調整基金のさらなる活用やまちづくり基金への新年度10億円の積立金のうち8億円を減額し、総額28億円の財源で、新型コロナ対策、暮らし、営業への支援の強化を求めた内容です。

採決の結果、自民、公明などの反対で動議は否決されました。

1. 新型コロナウイルス感染症対策

- 無料PCR検査体制の拡充 2億円
- ケア労働従事者への慰労金 3億5000万円

2. 暮らしへの支援

- 低所得世帯への臨時特別給付金 7億5000万円
- 全ての子どもを対象に臨時特別給付金 10億円
- 国保料18歳までの均等割5割減額手当 8000万円
- 学校給食費の半額化を第1子から 2億円
- 低所得世帯への大学入学準備支援金 5000万円
- 補聴器補助制度の創設 5000万円
- 会計年度任用職員への期末手当補填 2000万円

3. 営業への支援

- プレミアム付共通商品券の追加発行 5500万円
- 中小事業者への支援金支給 4500万円

北区議会第1回定例会 予算特別委員会

せいの恵子質問ダイジェスト



3月8日は「国際女性デー」。私は予算特別委員会で、「女性のエンパワーメントとジェンダー平等の社会実現に向けて」ジェンダー平等の北区へと質問しました。

🌸DVの相談・支援体制の拡充について

Q. コロナ禍でも対応可能なLINE相談の実施や、理解者や支援者を増やしていくための支援者養成講座の開催について、新年度予算案に、女性相談の拡充として示されている内容について。

ハードルの低い、宿泊も兼ねた一時的な安心・安全の居場所の提供、DV被害者の方が、生きる力を取りもどす支援プログラムおよび加害者更生プログラムの実施を求める。

A. コロナ禍のもと、気軽に相談が利用できるよう、NPO法人(DV被害者支援に取り組んでいる)に委託し、LINE相談や継続的なアウトリーチ支援など新たな事業を実施する。

・緊急時にはNPOのシェルターも活用し、安全な居場所も確保。利用は無料。その方の状況に応じて、期間も判断する。

・アウトリーチ型の支援を行う相談員、支援員を育成する講座も実施する。

・DV被害者の心理相談や自立支援のワークショッププログラムなども参考にしたいなど。

👉この間、当事者、支援者の方々から学びながら、継続して取り組み提案してきた内容が実現へ。

よかった～😊

これまで議会で取り上げ、提案してきた精神障害者、ひきこもり、ヤングケアラーなどの支援についても拡充を求めました。

🌸ヤングケアラー支援

Q. ヤングケアラーの実態調査及び職員への研修、区民への広報・啓発について

A. 東京都作成のパンフレットの活用、民生委員やケアマネなどへの講習会の開催、子ども子育て支援計画や教育ビジョンの見直しの中で区民アンケートに取り組み実態を把握していく。

👉本人が気づき声をあげられないからこそ、周囲の大人の理解が進むことが必要です。

🌸リプロダクティブ・ヘルス&ライツ「性と生殖に関する健康と権利」の拡充について

Q. 学校や公共施設での生理用品の無料配布についてについて。

A. 今年の2月から、生理用品を学校トイレに設置するモデル実施を、中学校2校でスタート。その結果を検証し、中学校全校や小学校にも拡げる。

👉学校全校に拡げ、公共施設にも拡充してほしい

Q. スクールセクハラ、デートDV防止教育を含め、包括的性教育の取り組みについて

A. スクールセクハラは性暴力でありあってはならない。どんな行為なのか、起きた時どうするか、誰に相談したら良いのかなど、「いのちの安全教育」を通じて学びをすすめる。

Q. 更年期障害など女性が気軽に相談できる体制の拡充を

A. 現在、女性のための健康相談で、産婦人科医による対面での相談、紹介状の発行や生活改善のアドバイスを行っている。今後、ミニ講演会の実施、女性のからだケア体験コーナーなど、事業を検討していく。

👉更年期の身体の不調は多くの方が経験しているのになかなか相談できないもの。気軽に相談出来る環境が必要ですね。

